AMDA Journal ダイジェスト　号外

発　行：2004年12月　No.21　定価：100円
発行元：〒701-1202 岡山市楢津310-1
特定非営利活動法人 AMDA（アムダ）
TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
E-mail：member@amda.or.jp
編　集：AMDA Journal 編集室
ホームページ：http://www.amda.or.jp

度重なる台風や地震の被災者の皆様にお見舞い申し上げます。

AMDA・岡山老健協共同

新潟県中越地震災害弱者支援プロジェクト開始

AMDA本部を出発する第二次専門職チーム（11.3）

新潟県中越地震被災者救援のため、AMDAは第一次調査チームを派遣しました。

＊派遣期間　10月27日～10月30日

- 十日町市・長岡市・小千谷市など被災地域で被災状況を調査
- 食糧・飲料水・生活必需品などを長岡市と十日町市の災害対策本部に提供

第一次調査チームの報告によると、高齢者の方々も数多く被災し、介護老人保健施設も定員を超える受け入れで対処されています。あわせて施設職員自身も被災されたため、十分な介護ができない施設もあります。

災害弱者支援に専門職が求められている現状から、AMDAは、新潟県老人保健施設協会及び岡山県老人保健施設協会（岡山老健協）と協議の上、共同で支援活動を開始しました。

1）目的

- 入所者の方々への専門職による介護サービスの提供
- 極度の疲労状態にある現地の職員の方々への労務提供

2）期間

11月3日から12月19日

3）派遣先

新潟県小千谷市　介護老人保健施設　春風堂

第二次専門職チーム派遣

＊派遣期間　11月3日～11月14日

1）被災状況

- 派遣当初、水は給水車が毎日補給にきていたが、11月5日より建物の一部を除きガス・水道とも復旧した。食料・飲料水・医薬品・医療機材・オシメやその他の介護用品は援助物資として十分供給されていた。施設の入所者に入浴サービスはまだ再開するに至っていない。
- 多くの職員が避難所から通勤しているため、人手不足と過重労働は明白である。
- 活動拠点の建物自体には大きな被害はないものの、余震が多いため目が行き届きやすいよう、入所者は1・2階の食堂と機能訓練室にベッドごと移動され、集まって生活されている。

2）第二次専門職チーム　支援概要

- 基本介護支援（食事介助・移乗介助・排泄介助）
- 基本動作の訓練
- 集団体操を中心としたレクリエーション活動
- インフルエンザのワクチン注射
- 近辺の被災施設視察、ニーズ調査

＊第二次専門職チームの報告より＊

専門職チームによる基本介護支援

2004年11月3日より専門職派遣チームとともに震災地である新潟県小千谷市に向かった。今回は災害弱者支援プロジェクトとして、本震によりスプリンクラーが作動し、居室が水浸しとなった小千谷市内の介護老人保健施設で、医療・介護サービス支援活動を行なった。期間は1ヶ月半としているが、ニーズに応じてプロジェクトの延長もあり得る。居室が使用できないため、また余震が頻回ですぐに避難可能な目的のため、被災者を含めた106名の入所者は食堂にベッドごと移動されている。

家の損壊と余震の恐怖から小千谷市の約7割にあたる2万7千人が避難所もしくは車中にて避難生活をされており、職員もそこから通勤しているため、人手不足と過重労働は明白だった。

10日以上も入所者は入浴しておらず、清拭のみであり、多くは仙骨部に褥創の兆候が見られた。寝たきりであるため廃用性の筋力低下が進行し、可能だった歩行が出来なくなった例も多数見られた。また、迷惑かけたくないなどと我慢する傾向があり、ストレスなどにより体調を崩す例もある。今後も引き続き看護師やOT：作業療法士、PT：理学療法士等を派遣してもらえれば有難いとのことであった。

第二次専門職チーム派遣を終了し、被災者にも色々な方がいて、様々な援助形式が必要であるということが明らかとなった。怪我や病気をされた方、生活基盤を失われた方、災害弱者と呼ばれる子ども、高齢者、要介助者、身体障害者、精神障害者等。被災者でありながら災害弱者を援助しなくてはならない方々。

こうした潜在したニーズを拾い上げ、専門職の技術で長期的に支援していく重要性は緊急救援に匹敵するのではないかと思われる。

第三次専門職チーム派遣

＊派遣期間　11月13日～11月21日

今後の支援　（11月13日現在）

- 当専門職チームは施設内に宿泊させていただいているため、夜勤帯の人手の薄い早朝に始まる朝食準備介助に加わることができた。滞在型の支援は、入所者の状態や仕事の手順を把握しやすいため有効な形態と思われる。
- 高齢者・要介助者・障害者など災害弱者とされる方々には、それぞれに必要な支援は異なっている。緊急援助がほぼ終了した後も、食事介助・移乗介助・排泄介助などは休みが許されない。多くの職員も被災している現状では、長期的に支援していくことは重要だと考える。

HIV/エイズ　AMDA実践報告セミナー報告

AMDA職員　田中　一弘

日時　：10月11日（祝日）
場所　：岡山国際交流センター
第1部：HIV/エイズと国際協力
　学校でHIV/エイズをどう伝えるか（国際理解教育とエイズ）　AMDA　近藤麻理
　AMDAのHIV/エイズ対策プロジェクトについて　AMDA　田中一弘
　JICAのHIV/エイズ対策
　　独立行政法人国際協力機構　人間開発部
　　第4グループ感染症対策チーム　遊佐　敢氏
第2部：岡山のHIV/エイズ状況
　岡山県内の現状と診療やケアに係わる団体等の紹介
　　岡山市保健所所長　中瀬　克巳氏
　岡山におけるYouthの活動
　　AIDS　Activists　（A2）
第3部：HIV/エイズ予防教育ワークショップ
　AMDAホンジュラスプロジェクトHIV/エイズ予防教育を体験
　　AMDAホンジュラス　渡辺　咲子
助成：財団法人　福武文化振興財団
主催：AMDA
協賛：おかやま国際貢献月間協賛事業（岡山県）
後援：岡山県教育委員会・岡山市・岡山市教育委員会・独立行政法人　国際協力機構中国国際センター

セミナーの主旨

AMDAがHIV/エイズに焦点を当ててセミナーを開くのはこれが初めてである。読者の皆さんの中には、「なぜAMDAがHIV/エイズのセミナーを？」と疑問を抱く方もいらっしゃるかもしれない。AMDAは、自然・人的災害時の緊急救援とともに、中長期的な保健医療、農村開発などの活動を行っている。その中で、HIV/エイズの問題については、それを特に重要な課題として捉え、中南米（ペルー・ホンジュラス）、アフリカ（ケニア・ザンビア・ジブチ）、アジア（ミャンマー・ネパール）の各地域でHIV/エイズ対策のプロジェクトを行っている。中南米のペルー、ホンジュラスにおいては、学校での参加型予防教育を実施してきており、その手法が確立されつつある。

日本では、海外に比べてまだ罹患率が低いということもあり、予防への意識も高くない。しかしながら、実際には毎年の感染者の数は一貫して増加してきており、HIV/エイズ対策を拡充していかなければ、感染爆発が起こることが懸念されている。そこで、AMDAが海外で重ねてきた経験を、日本、とりわけ地元である岡山で活用しようというのがこのセミナーの主なねらいである。

■HIV/エイズについて

HIV/エイズという言葉が聞かれるようになって久しいが、読者の方々はどのくらいこの問題を意識されているだろうか。現在、全世界に4,000万人のHIV/エイズとともに生きる人々（PLWHA）がいると言われている。2003年だけで、500万人が新たに感染し、300万人が亡くなった。

HIV（Human Immunodeficiency Virus:ヒト免疫不全ウイルス）とは、ウイルスの一種であり、感染すると免疫機能が低下する。平均7年から10年の潜伏期間を経て、免疫不全の状態になり、健康な状態ではかかりにくい疾患（日和見感染症）にかかり、エイズ（AIDS）を発症する。

エイズ（AIDS）とは（Acquired Immunodeficiency Syndrome）の略で、日本語では後天性免疫不全症候群である。結核、カリニ肺炎、悪性リンパ腫など、指定されている23の疾患のいずれかを発症した時に、エイズを発症したことになる。

■HIV/エイズと国際協力

HIV/エイズは、地球規模の問題として認識されており、その対策には国際社会の全ての人々の協力が欠かせない。エイズは、医療だけの問題に留まらず、貧困、偏見・差別、など様々な社会経済的な面を含むため、包括的なアプローチが必要となる。

HIV/エイズ対策と国際協力の関連性は、PLWHAの95%が途上国にいるという事実にある。毎日ぎりぎりの生活を送っている人々にとって、HIVに感染し、エイズを発症するということは、非常に大きな負担となり、それが死を意味してしまうことが多い。抗HIV治療薬により、HIVのウイルス量を減らし、増加を抑制することで、エイズの発症を遅らせ、長く生きることが可能になってきたのだが、先進国と途上国では、治療薬へのアクセスの格差はとても大きい。こうした状況への対策として、UNAIDS（国連合同エイズ計画）とWHO（世界保健機関）は、2005年までに300万人が抗HIV治療を受けられるようにするという3 by 5（スリーバイファイブ）戦略を進めている。

■海外でのHIV/エイズ対策

HIV/エイズ対策は、予防啓発、検査、ケア・サポート・治療の3つに大きく分けられるが、これには、PLWHA、地域住民、各国政府、国連機関、二国間援助機関（日本ではJICA）、企業・民間政府組織、NGOなど様々な団体・個人が携わっている。つまり、すべての人々がそれぞれの特性を活かし、連携しながら関わっていくべきものなのである。

主に日本の技術協力を担当するJICAは、予防と検査の分野に重点をおいて活動している。また、日和見感染症などに対する医療に関わる人材の育成などの治療分野や、国家レベルでの計画にエイズ対策を組み込む働きかけなど政策の分野での協力にも力を入れつつある。青年海外協力隊に新しく設けたエイズ対策隊員を通じた活動も始まっている。

一方、NGOであるAMDAは、多くの関係機関と連携しながら、草の根レベルでのHIV/エイズ対策を進めている。これまでは、特に予防の分野で経験を積んできてお

り、VCT（自発的カウンセリ
症（特に結核）の治療の分野
み合わせて対策を進めている

■日本・岡山の状況

先にも述べたが、日本では
きる人々の数は増加の一途を
12,000人という数字もでて
20,000人以上がHIVに感染
り、さらに数年後には2倍以
る。岡山での状況も同様であ

近年、性の低年齢化が進み
による性感染症や若年妊娠な
うした年齢層への対策が重要
ても、保健所が学校などに
を含めた性感染症に関する理
実施している。また、岡山大
AIDS Activists（A2=エイツ
し、岡山市保健所と連携して
る理解を深めるための、STI
会を開いている。

＊岡山市保健所によるエイズ
　電話　086-803-1269
　エイズ・性感染症相談・検
　症ホットライン　原則無
＊HIVと人権・情報センター
　電話　086-232-5990

■参加型教育

AMDAが予防教育活動を
ュラスでは、参加型の手法（
ている。具体的には、ゲーム
て、受講者（生徒）がそれに
識をつけるだけでなく、体を
らう」ということを促してい
ってもらうことは大切だが、
びつくことは少ない。予防す
自身に「気づいてもらう」こ
るのである。

■今後の展開

セミナーのアンケートでは
ただいたが、その中で、こう
っていくこと、そして、教育
NGOなどが相互に連携して
できた。AMDAとしては、
て、海外での経験を活かして
エイズ予防対策に寄与できる

なねらいである。

ようになって久しい
題を意識されている
人のHIV/エイズと
ると言われている。
感染し、300万人が

Virus:ヒト免疫不全
あり、感染すると免
)年の潜伏期間を経
状態ではかかりにく
エイズ（AIDS）を発

Immunodeficiency
天性免疫不全症候群
ンパ腫など、指定さ
した時に、エイズを

として認識されてお
人々の協力が欠かせ
留まらず、貧困、偏
面を含むため、包括

性は、PLWHAの95
。毎日ぎりぎりの生
に感染し、エイズを
な負担となり、それ
抗HIV治療薬により、
抑制することで、エ
とが可能になってき
療薬へのアクセスの
況への対策として、
VHO（世界保健機関）
V治療を受けられる
イファイブ）戦略を

査、ケア・サポート・
これには、PLWHA、
国間援助機関（日本
GOなど様々な団体・
ての人々がそれぞれ
っていくべきものな

ICAは、予防と検査
。また、日和見感染
育成などの治療分野
策を組み込む働きか
入れつつある。青年
策隊員を通じた活動

くの関係機関と連携
イズ対策を進めてい
経験を積んできてお

り、VCT（自発的カウンセリングと検査）、日和見感染症（特に結核）の治療の分野でも、地域医療の活動と組み合わせて対策を進めている。

■日本・岡山の状況

先にも述べたが、日本では、HIV/エイズとともに生きる人々の数は増加の一途をたどっている。公式には、12,000人という数字もでているが、ある報告によると、20,000人以上がHIVに感染していると推測されており、さらに数年後には2倍以上に増えると警告されている。岡山での状況も同様であり、数は毎年増加している。

近年、性の低年齢化が進み、若年層の無防備な性行為による性感染症や若年妊娠などが増加しており、特にこうした年齢層への対策が重要視されている。岡山においても、保健所が学校などに講師を派遣し、HIV/エイズを含めた性感染症に関する理解を深めるための講習会を実施している。また、岡山大学の学生が中心となって、AIDS Activists（A2=エイツー）というサークルを組織し、岡山市保健所と連携して、HIV/エイズと性に関する理解を深めるための、STI（性感染症）カフェや講習会を開いている。

＊岡山市保健所によるエイズ・性感染症ホットライン
電話　086-803-1269
エイズ・性感染症相談・検査予約はエイズ・性感染症ホットライン　原則無料・匿名
＊HIVと人権・情報センター岡山支部による夜間相談
電話　086-232-5990

■参加型教育

AMDAが予防教育活動を行っているペルーやホンジュラスでは、参加型の手法（ワークショップ）を活用している。具体的には、ゲームやロールプレイなどを使って、受講者（生徒）がそれに参加することによって、知識をつけるだけでなく、体を動かしながら「気付いてもらう」ということを促している。きちんとした知識を持ってもらうことは大切だが、それだけでは行動変容に結びつくことは少ない。予防することの必要性を、受講者自身に「気づいてもらう」ことが、安全な行動につながるのである。

■今後の展開

セミナーのアンケートでは、様々な貴重なご意見をいただいたが、その中で、こうしたセミナーを継続的に行っていくこと、そして、教育現場、地域社会、公的機関、NGOなどが相互に連携していくことの大切さが再認識できた。AMDAとしては、このセミナーを出発点として、海外での経験を活かして、岡山を中心に日本のHIV/エイズ予防対策に寄与できるよう努力していきたい。

ジブチ　難民支援プロジェクト

アラウサ・トランジット・キャンプ
ー違法滞在者と難民認定ー

AMDAジブチ　吉田　美希

昨年7月、ジブチ内務省が驚く発表をした。内容は、「違法滞在者の取り締まりを強化する。自分達の国に帰れる人は1ヶ月以内に全員退去すること。」というものだった。

なぜ突然このような政策に踏み切ったのか、ジブチ政府からの回答は納得できるものではないが、一説にはアメリカ軍やUSAIDがジブチでの活動を本格化するにあたり、町中を徘徊している人々を厳しく取り締まることにより、テロの可能性を最小限に押さえるための戦略だと噂されている。

ジブチはエチオピアやソマリア等の周辺国に比べ、状勢も安定し経済的にも利点が多いため、多くの違法滞在者が職を求めてやってくる。職種も大工や車修理のメカニッシャンからガードマン、メイド、水商売まで幅広い。外国人家庭でメイドとしているジブチ人家庭に、エチオピア人のメイドがいる、などという話も聞いたことがある。

街中での違法滞在者の取り締まりが厳しくなることを受け、5万人以上が祖国に自主帰還して行ったと言われている。また、「何らかの理由で自国に帰れない人々は、アラウサキャンプに行くこと。期限は8月31日まで。」とうい内務大臣の呼びかけに対し、「アラウサに行けば、仕事をしなくても生活が保護され、食料がもらえる」という勝手な噂まで広まった。

内務大臣の発表した期限が切れる2日ほど前から、アラウサキャンプに続々と人が集まってきた。3日のうちに約1万3千人が押し寄せ、どこも混乱状態であった。住居はまったく足りず、食料はない、水も十分にはなかった。関係機関が必要最低限の生活環境を整える間、大量の人々がAMDAのクリニックに助けを求め、やってきた。

空腹や栄養失調は、薬だけでは治療できない。私たちが患者の診療に追われる一方、キャンプ内では空腹と苛立ちから暴力の衝突が頻繁に起こり、傷や火傷を負った患者が多い日には10人以上クリックに担ぎ込まれてきた。また、出産数も多く、2ヶ月間で100人以上の赤ちゃんがAMDAのアラウサクリニックで誕生した。

そして、これまで多くの違法滞在者で溢れ、賑っていたジブチ市内は、ゴーストタウンのように静まり返った。新聞には、洗濯物がたまって着る服のないジブチ人や、朝ご飯が準備されていないため空腹で学校に行く子供等、違法滞在していたメイドのいなくなった家庭の様子が描かれた。これにより、ジブチ人の雇用機会が増え

ることも予想さ
たが、「ジブチ人
仕事をしないが
雇いたくない」
というジブチ人も
いらしい。
その後、AM
環境を整え、主

医療施設の修
・クリニックの
・リハイドレー
院テント）
・ポスト・デリ
・栄養給食プロ

スタッフの人
・アラウサに集
に携わってき
ートし、ドク
・HIV/エイズ
・結核患者の発

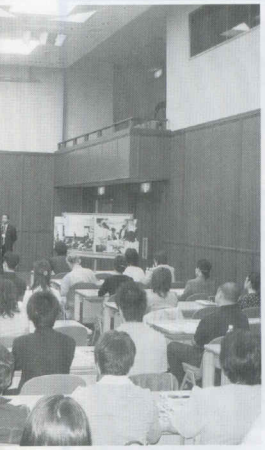
コミュニティ
・予防接種キ
・トイレの新築
・キャンプ内の
・HIV/エイズ
・5歳未満の
プログラム

難民認定の結
10ヶ月経っ
難民認定委員会
のリストを発表
戦争等の危険
た人や、政治的
らされる恐れ
UNHCRからの

一方、経済的
論「難民」と
題は何一つ解
プチに滞在す
もし今回彼ら
るのではない

しかし同時
があったとい
国は、東アフ
ている。ジブ
生したものの
いない。

日本でも、
や、入国管理
しの不都合だ
を視野に入れ
た違法滞在者



ングと検査）、日和見感染
でも、地域医療の活動と組
。

、HIV/エイズとともに生
たどっている。公式には、
いるが、ある報告によると、
染していると推測されてお
上に増えると警告されてい
り、数は毎年増加している。
、若年層の無防備な性行為
どが増加しており、特にこ
視されている。岡山におい
師を派遣し、HIV/エイズ
解を深めるための講習会を
学の学生が中心となって、
ー）というサークルを組織
、HIV/エイズと性に関す
（性感染症）カフェや講習

・性感染症ホットライン

査予約はエイズ・性感染
料・匿名
岡山支部による夜間相談

行っているペルーやホンジ
ワークショップ）を活用し
やロールプレイなどを使っ
参加することによって、知
動かしながら「気付いても
る。きちんとした知識を持
それだけでは行動変容に結
ることの必要性を、受講者
とが、安全な行動につなが

、様々な貴重なご意見をい
したセミナーを継続的に行
現場、地域社会、公的機関、
いくことの大切さが再認識
このセミナーを出発点とし
、岡山を中心に日本のHIV/
よう努力していきたい。

ジブチ　難民支援プロジェクト

アラウサ・トランジット・キャンプ

ー違法滞在者と難民認定ー

AMDAジブチ　吉田　美希

昨年7月、ジブチ内務省が驚く発表をした。内容は、「違法滞在者の取り締まりを強化する。自分達の国に帰れる人は1ヶ月以内に全員退去すること。」というものだった。

なぜ突然このような政策に踏み切ったのか、ジブチ政府からの回答は納得できるものではないが、一説にはアメリカ軍やUSAIDがジブチでの活動を本格化するにあたり、町中を徘徊している人々を厳しく取り締まることにより、テロの可能性を最小限に押さえるための戦略だと噂されている。

ジブチはエチオピアやソマリア等の周辺国に比べ、状勢も安定し経済的にも利点が多いため、多くの違法滞在者が職を求めてやってくる。職種も大工や車修理のメカニッシャンからガードマン、メイド、水商売まで幅広い。外国人家庭でメイドとしているジブチ人家庭に、エチオピア人のメイドがいる、などという話も聞いたことがある。

街中での違法滞在者の取り締まりが厳しくなることを受け、5万人以上が祖国に自主帰還して行ったと言われている。また、「何らかの理由で自国に帰れない人々は、アラウサキャンプに行くこと。期限は8月31日まで。」とうい内務大臣の呼びかけに対し、「アラウサに行けば、仕事をしなくても生活が保護され、食料がもらえる」という勝手な噂まで広まった。

内務大臣の発表した期限が切れる2日ほど前から、アラウサキャンプに続々と人が集まってきた。3日のうちに約1万3千人が押し寄せ、どこも混乱状態であった。住居はまったく足りず、食料はない、水も十分にはなかった。関係機関が必要最低限の生活環境を整える間、大量の人々がAMDAのクリニックに助けを求め、やってきた。

空腹や栄養失調は、薬だけでは治療できない。私たちが患者の診療に追われる一方、キャンプ内では空腹と苛立ちから暴力の衝突が頻繁に起こり、傷や火傷を負った患者が多い日には10人以上クリックに担ぎ込まれてきた。また、出産数も多く、2ヶ月間で100人以上の赤ちゃんがAMDAのアラウサクリニックで誕生した。

そして、これまで多くの違法滞在者で溢れ、賑っていたジブチ市内は、ゴーストタウンのように静まり返った。新聞には、洗濯物がたまって着る服のないジブチ人や、朝ご飯が準備されていないため空腹で学校に行く子供等、違法滞在していたメイドのいなくなった家庭の様子が描かれた。これにより、ジブチ人の雇用機会が増えることも予想されたが、「ジブチ人は仕事をしないから雇いたくない」というジブチ人も多いらしい。

その後、AMDAは少しずつ医療施設やスタッフ、衛生環境を整え、主に下記の活動を実施してきた。

医療施設の修復、新設

- クリニックの修復工事　（診察室や分娩室、薬局）
- リハイドレーション・センターの設置　（下痢患者の入院テント）
- ポスト・デリバリーセンターの新築（出産前後の入院室）
- 栄養給食プログラム用キッチンと倉庫の設置

スタッフの人材育成

- アラウサに集まってきた人の中から、これまでに医療に携わってきた人材をAMDAのスタッフとしてリクルートし、ドクターによる講義や実践訓練を行ってきた。
- HIV/エイズについてのセミナーを開催。
- 結核患者の痰検査の方法

コミュニティー内での活動

- 予防接種キャンペーン
- トイレの新築
- キャンプ内の掃除キャンペーン
- HIV/エイズについて知識を広めるイベント
- 5歳未満の栄養（健康）診断（栄養失調児は栄養給食プログラムに登録）

難民認定の結果通知

10ヶ月経った6月上旬、ジブチ政府とUNHCRによる難民認定委員会が「難民」として認定された約4,000人のリストを発表。

戦争等の危険から身を守るためにジブチに移住してきた人や、政治的な理由から祖国に帰国した場合危険にさらされる恐れのある人は「難民」として認定され、UNHCRからの支援や保護が受けられる。

一方、経済的な理由等により出稼ぎに来た人々は、勿論「難民」としては認定されない。よって、根本的な問題は何一つ解決していないにもかかわらず、このままジブチに滞在する資格を否定されたことになる。よって、もし今回彼らを強制的に帰還させても、また出稼ぎにくるのではないかと予想される。

しかし同時に、テロを事前に防ぐという面では、効果があったといえるかも知れない。米国及びヨーロッパ諸国は、東アフリカにおけるテロの脅威を継続的に警告している。ジブチでは、過去1年間に数回の爆破事件が発生したものの、被害は少なく、正式な声明も発表されていない。

日本でも、テロ対策の警備強化により、搭乗時の検査や、入国管理が厳しくなっている。私たちにとっては、少しの不都合だけだが、もしもジブチ内務省の発表がテロを視野に入れ実施したものであれば、ジブチに住んでいた違法滞在者が受けた影響は計り知れない。

第2回 沖縄平和賞を受賞して

特定非営利活動法人アムダ理事長　菅波　茂

AMDAの理念でもある「多様性の共存」の成功モデルといえる沖縄の移民の方々の現地での共栄共存の歴史は、多文化、多宗教、多民族の壁を越えた平和の証といえるでしょう。AMDAも中南米（ホンジュラス・ペルー・ボリビア）での社会開発活動や緊急救援活動はこうした沖縄出身の日系人が中心となって活動しています。そしてAMDA沖縄県支部からは、中南米での緊急救援の度に人材を派遣してもらっています。この受賞を、中南米でのAMDAの活動に寄与してくれている沖縄出身の日系人スタッフとAMDA沖縄支部の皆さんと共に喜びを分かち合いたいと思います。そして今後は更に沖縄県支部と沖縄出身の日系人の方々との核融合により緊急人道支援活動のみならず社会開発などを含めた広範囲でダイナミックな活動の展開を考えています。

また第二次世界大戦における沖縄戦での戦死者への敵味方を問わぬ慰霊として摩文仁の丘を築かれ、恒久平和を願っておられる沖縄県同様、AMDAも世界平和構築のために活動しています。AMDAは平和を「今日の家族の生活と明日の家族の希望が実現する状況」と定義しています。この平和を阻害する要因として戦争、災害そして貧困があります。これらの被害者を対象に、災害発生時や難民発生時の緊急救援活動や、世界13カ国において社会開発活動（保健医療支援活動）を行うことで、平和実現に日々努力しています。

特にAMDAでは、「医療和平プロジェクト」として、アフガニスタン、旧ユーゴスラビア（現セルビア・モンテネグロ）、そして昨年からは20年間におよぶ内紛に停戦合意をしたばかりのスリランカに入り、敵対する双方に公平に医療支援を行う和平プロジェクトを行ってきました。

世界中の人々が平和の掛け橋である「沖縄」を知っています。その沖縄がメッセージを出されることは非常に意義深いことであり、沖縄平和賞の理念に近づけるよう、国連NGO AMDAは益々精進を重ねたいと考えます。

皆様からのご支援とご高配を、何卒よろしくお願い申し上げます。

稲嶺知事から沖縄平和賞の賞状を手渡される菅波茂AMDA（アムダ）理事長（右）＝22日午後、名護市・万国津梁館　沖縄タイムス10・23

AMDAに沖縄平和賞

人道支援へ県と協力

津梁館で授賞式

アジア・太平洋地域の平和への貢献をたたえる第二回沖縄平和賞の授賞式が二十二日、名護市の万国津梁館で開かれた。同賞委員会会長の稲嶺恵一知事が国際医療援助団体「AMDA（アムダ）」（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市）の菅波茂理事長に賞状と副賞一千万円を贈り、今後人道支援活動で協力し合うことを確認した。（3・27面に関連）

AMDA プロジェクト ご支援のお願い

AMDAの国際人道支援活動には災害や紛争の被災者となった人々を支援する緊急救援活動と、開発途上国で貧困に苦しむ人々を支援する社会開発活動（地域医療・地域開発支援）があります。

現在も皆様の温かいご支援を受けてアジア・アフリカ・中南米13カ国における国際人道支援活動を継続するとともに、新潟県においては地震被災者支援活動を行っています。

今後とも皆様の変わらぬご厚情により、AMDAの活動を支えて下さいますようお願い申し上げます。

郵便振込　口座番号　01250-2-40709
口座名　AMDA
※特定寄附の場合は通信欄にご明記下さい。

＊書き損じはがき、未使用はがき・切手を集めています。年賀はがき等の書き損じはがきは切手と交換し、通信費として使用しています。

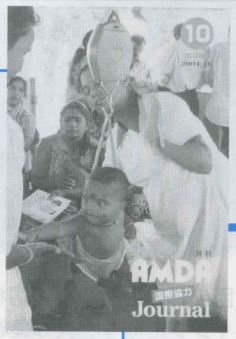
AMDA 会員募集

AMDAの活動へのご意見をお聞かせください！

一般会員・学生会員・医師会員・法人会員となって下さった皆さまには、AMDAの活動へのさまざまなご提案を頂きたく、活動報告誌『**AMDAジャーナル**』を毎月送付します。また、賛助会員の皆さまには半期毎に『**AMDAダイジェスト**』を送付します。

詳細はAMDAホームページをご覧下さい。　http://www.amda.or.jp/

入会手続にはAMDAの郵便払込用紙をご利用下さい。



AMDA 活動紹介ビデオの貸出し

AMDAの活動を紹介したビデオ「救える命があればどこへでも」（10分）が出来上がりました。

活動写真パネル等と同様に貸し出しを行っていますのでご活用ください。

緊急アピール

新潟県中越地震 災害弱者支援活動へのご支援を

【募金のお願い】

皆様のご支援をお願いしております。

郵便振替：口座番号 01250-2-40709
口座名「AMDA」

通信欄に「新潟地震」とご記入下さい。

【お問い合わせ】

AMDA・岡山老健協共同事務局
（特定非営利活動法人　AMDA 広報室）
TEL:　086-284-7730
member@amda.or.jp